

〈論文〉

沖縄語久米島泊・謝名堂方言の名詞の格

ハイス・ファン＝デル＝ルベ
Gijs van der Lubbe

要旨

本稿では、現地調査の結果に基づき、沖縄語久米島泊・謝名堂方言の名詞の格形式の記述を試みた。属格には、3つの形式が用いられ、その使い分けは、名詞の有生性によると考えられる。また、*katʃi*、*Ngati*、*ni*、*nakai*、*nikai*の5つの格形式の意味用法の共通点と相違点を記述している。場所格には、*jo:ti*、*Ndʒi*、*Ndzo:ti*の3つの形式がある。*Ndʒi*と*Ndzo:ti*は、話し手から離れている場所をしめしている。なお、*Ndzo:ti*は、1人称の主語のばあいに使用できず、動作進行をあらわしている述語としか共起できない。

Abstract

This study is an attempt to give a description of the case forms of nouns in Kumejima Tomari-Janadō Okinawan based on fieldwork. There are three genitive forms, and which of them is used depends on the animacy of the noun they attach to. The similarities and differences in use of the five forms *katʃi*, *Ngati*, *ni*, *nakai*, and *nikai* have been described as well. There are three locative forms: *jo:ti*, *Ndʒi*, and *Ndzo:ti*. *Ndʒi*, and *Ndzo:ti* are used to indicate a location removed from the speaker. And, *Ndzo:ti* cannot occur with a 1st person subject, and occurs exclusively with predicates that express a continuing action.

1. 背景情報

1.1. 対象地域とその言語

久米島で話される諸方言は、2種類に大別できる。1つは、島外からの移住者が創立した集落で話される諸方言である。もう1つは、久米島の伝統集落で話される諸方言である。後者は、沖縄語の中の1つの方言クラスターをなしているが、その中でも地域的な多様性が存在する（仲原 2017 : 8-9）。

泊と謝名堂は、久米島の旧中里村に属する2つの集落である。現地の方言では、「泊」は、*tumai*であり、謝名堂は、*jararo:*であるが、沖縄でよく用いられる二村併称では、*tumai-jararo:*「泊・謝名堂」と言われる。泊と謝名堂は、集落が隣接していることから、昔から集落同士の交流が頻繁に行われている。泊と謝名堂の間には、言語差がほとんどなく、1つの言葉になっているが、西に隣接する比嘉（沖縄語名：*dza:mu*）の方言は、泊・謝名堂方言と少々異なる。

1.2. 泊・謝名堂方言の現況

UNESCO の Atlas of the World' s Languages in Danger[<http://www.unesco.org/culture/en/endangeredlanguages/atlas>、最終アクセス日 2021 年 12 月 10 日]によると、鹿児島県の奄美群島と沖縄島及び周辺島嶼からなる北琉球列島で伝統的に話されている諸言語の危機度は「安全」から「絶滅」までの 6 段階中の 3 段階目の「危機」に分類されている。著者の経験では、泊・謝名堂方言のもっとも若い話者は、1960 年代後半に生まれた。それより若い世代は、日本語のモノリングルであり、沖縄語久米島泊・謝名堂方言を理解できても話せない。

1.3. 泊・謝名堂方言の主な特徴

沖縄語諸方言の中でも泊・謝名堂方言は、次の点において特徴的であると考えられる。

- ① 音声：s が h になることが多いが、例外もある。例：「美味しい」 ma:saN → ma:haN、「持たせる」 mutasuN → mutaφuN、「連れる」 so:juN → ho:juN
- ② 音素 N の前においては、長音が起こり得ない。例：「おきている」 ukito:N → ukitoN
- ③ 取立て助詞：「も」に相当するものに N、ro:, Nte: の 3 つがあり、その使い分けに関しては、さらなる調査が必要である。「だけ」に相当する助詞は、gatʃa: である。
- ④ 引用助詞「と」に相当するのは、tʃaNtʃi である。
- ⑤ 動詞 ajuN 「いう」（否定形 ajaN 「言わない」、過去形 [aNtʃaN]）は、aN 「そう」と juN 「いう」の融合した形式である。
- ⑥ 動作継続はテマリ相当形式よりテアルキマリ相当形式 -te:tsuN によってあらわされる。
- ⑦ コピュラは、焦点化助詞 ru と融合して re:ru
- ⑧ 指示代名詞の kuri 「これ」、uri 「それ」、ari 「あれ」は、指示連体詞として名詞を修飾するようになっており、指示代名詞と指示連体詞が同形である。例えば、kuri ja: 「この家」である。連体詞専用の形式 kunu 「この」、unu 「その」、anu 「あの」は、生産性を失い、unu mama 「そのまま」や unu dʒibuN 「その時分」などのような決まり文句にしかあらわれない。

1.4. 調査方法

2015 年 12 月から 2023 年 5 月まで泊・謝名堂方言の母語話者である KM（女 1936 年生）と MI（男 1947 年生）を資料提供者とし、さまざまなテーマに関する聞き取り調査をおこなってきた。それに加え、2011 年 9 月、2015 年 12 月、2021 年 10 月と 112 月に約 4 時間の自然談話をとった。その自然談話の資料もできるかぎり、考慮に入れ、不明な点を上に述べた 2 人の話者に確認した。自然談話の話者は、上に述べた 2 人以外、YS（女 1932 年生）、YS（女 1942 年生）、TY（女 1929 年生）、KY（女 1922 年生 +2013）、YY（男 1953 年生）、TN（男 1969 年生）、SS（女 1940 年生）、YK（男 1939 年生）である。なお、調査は終了しておらず本稿は中間報告的なものである。

1.5. 沖縄語久米島諸方言における格形式に関する研究

沖縄語久米島諸方言における格形式を扱っている先行研究は、仲原（2016）の真謝方言の名詞の格の記述や、野原（1983と1998）の久米島諸方言における助詞の記述があり、また木部（2017）にも久米島諸方言の格形式に関する資料が載っている。泊・謝名堂方言の名詞の格を対象とした研究は、いまだにない。

2. 泊・謝名堂方言における格形式一覧

泊・謝名堂方言には、統語論的、意味的、そして語用論的な役割をあらわす形態論が助詞の形で発達しているが、助詞がついていない、いわゆるはだかの形も格をあらわすことがある。泊・謝名堂方言には、すべてあわせて、ハダカ格、ga格、nu格、katʃi格、Ngati格、ni格、nakai格、nikai格、jo:ti格、Ndʒi格、Ndzo:ti格、tʃi格、kara格、na:ri:格、mari格、jakaN格、tu格がある。それぞれの格形式をとった名詞の文法的な意味をまとめると、表1のようになる。

表1. 泊・謝名堂方言の格形式

格助詞	意味用法
ハダカ	他動詞の直接目的語（対格）、主語、側面、所有、所属先、行先、時間
ga	主語、側面、所有、所属先
nu	所有、所属先
katʃi	行先、相手、くつつくところ、関係、ありか、道具、述語の要素
Ngati	行先、相手、くつつくところ、関係、ありか、道具、述語の要素
ni	ありか、時間、相手、くつつくところ、関係、道具、行先、目的、原因
nakai	ありか、時間、相手、くつつくところ、関係、道具
nikai	ありか、時間、相手、くつつくところ、関係、道具
jo:ti	場所、事態が成立する範囲、時間の範囲
Ndʒi	場所
Ndzo:ti	場所
tʃi	道具、材料、手段、原因
kara	出所、とりはずす所、出発場所、材料、手段、移動の経路、開始時間、相手
na:ri:	移動の経路
mari	到達場所、動作や状態がおわる時間
jakaN	比較の基準
tu	相手、関係、共格

3. はだか格

はだか格は、名詞に助詞がついていない語形である。これには、対象（対格）、動作主や状態の持ち主（主格）、側面、属格、行先、時間などのようなさまざまな文法的な意味がある。

用例（1）～（5）は、対格としてのはだか格の使用をしめす。日本語の「を」に相当する

格助詞がなく、対格をしめす助詞が泊・謝名堂方言にない。

- 1) unu dʒibuN me:niʈʃi <tereʃi>ⁱ NdzutaN
 その ころ 毎日 テレビ 見る .P2ⁱⁱ
 そのころ毎日テレビを見ていた。
- 2) aNma:=ga nama taNʃi=ni tʃinu itte:tsu-N
 おかあさん = NOM 今 タンス = DAT 着物 入れる .PROG-IND
 おかあさんが今たんに着物を入れている。
- 3) juta ko:-ti ugaN usagi-ratʃa-N
 ユタ 買う -MED 祈り あげる -CAUS.P1-IND
 ユタを買って、祈りをあげさせた。
- 4) uri muʃi muru biN-gwa:=ni itti,
 その虫 全部 瓶 -DIM = DAT 入れる .MED
 その虫を全部瓶に入れて
 u:mi Ndʒi nagaʃuta-N
 海 行く .MED 流す .P2-N
 海に行つて、流していた。
- 5) aNtʃi maguri-to:-nu tʃinu tʃi-tʃi
 あんなに しわが寄る -CONT-ATT 着物 切る -MED
 ʃu:dze: ne:ra-ha
 様子 .TOP ない .DSC
 あんなにしわが寄っている着物を着て、みっともないよ。

動作主や状態の持ち主をあらわす主格でもはだか格があらわれる。

- 6) taru=N itʃaN-gutu wanu itʃa=ja:
 誰 =ADT 行く .NEG-CSL 1.SG 行く .INT=DSC
 誰も行かないから、私が行くね。
- 7) sata: uʃusa-nu ruku amaNbiri-ti kam-ar-aN
 佐藤 多い -MED あまりにも あまくなる -MED 食べる -POT-NEG
 砂糖が多くてあまりにも甘くなって食べられない。
- 8) nama i:fu=ne: jamatuNtsu uho:sa u-N=ro:
 今 イーフ =DAT.TOP 本土の人 多く いる -IND=DSC
 今イーフには、本土の人がたくさんいるよ。
- 9) ami ʃu-ta-kutu, jase: buNdʒi-to:-ha
 雨 降る -P1-CSL 野菜 .TOP 繁茂 -CONT-DSC
 雨が降ったから、野菜が繁茂しているよ。

次の用例では、ハダカ格の名詞が主語である人の部分などの側面をあらわす。

- 10) are: taki takaha-N
 あれ.TOP 背 高い -IND
 彼は、背が高い
- 11) wano: kuʃi jamitiN itsu=ru su-ru!
 1.sg.TOP 腰 痛い .CNC 行く =FOC する -EMP
 私は、腰が痛くても行くのだよ！

動作や状態がなりたつ時をあらわす名詞などにも助詞がつかず、ハダカ格で用いられることがある。時間名詞の ki: 「きょう」、kinu: 「昨日」、utti: 「一昨日」、atʃa 「明日」、na:tʃa 「翌日」、kune:ra 「此の間」、kunume: 「この前」、tʃikaguru 「最近」、jusanri 「夕方」、juru 「夜」、tumiti 「朝」は、ハダカ格であらわれ、時間をあらわす ni/nakai/nikai との共起する用例が得られなかった。

- 12) kinu: itta:=ga <su:pa:>=jo:ti
 昨日 2P.PL=NOM スーパー =LOC
 juNtaku tʃe:tsuta-he:
 おしゃべり する .PROG.P2-DSC
 昨日きみたちがスーパーでおしゃべりをしていたじゃないか。
- 13) kinu: haru=katʃi Ndza-kutu habu=ga u-to:-ta-N
 昨日 畑 =DAT 行く .P1-CS ハブ =NOM いる -CONT-P1-IND
 昨日畑に行ったところ、ハブがいた。
- 14) mata juru udzuri, na-ra:ha
 また 夜 目が覚める .MED なる -NEG.DSC
 また夜目が覚めて、だめだよ。

動詞 najuN 「なる」や naʃuN 「為す・～にする」などのような単語と組み合わせて述語の要素もハダカ格であらわされる。

- 15) ja: <daigakukjo:dʒu> naju-hi=re-N=na?
 2.SG 大学教授 なる -NLZ=COP-IND=YNQ
 きみ、大学教授になるわけなのか？
- 16) warabi ja-ine: janaka:gi:-gwa: ja-ta-higa,
 子供 COP-TM.TOP 不美人 -DIM COP-P1-ADVRS
uʃutsu na-ta-kutu, ka:gi-Ngwa: Ndʒi-to:-ha
 大人 なる .P1-CSL 外見 -DIM 出る -CONT-DSC
 子供の頃は、不美人だったけど、大人になったから、綺麗になっているよ。

- 17) <ko:miNkaN> kuʃi nahi:ne: mi:=nu me:=ni a:-nu hadʒi
 公民館 後ろ 成す .CND 目 =CNJ 前 =DAT ある -ATT はず
 公民館を後ろにしたら、目の前にはあるはずだ。

はだかの形は、有生性の高い代名詞のばあい、属格として用いられ、所有者や属性をあらわす。taru「だれ」とwanu「私」は、名詞述語や目的語などとしてあらわるばあいに、変化せずにあられるが、連体修飾語として用いられるばあい、助詞は、つかないが、形式が変化し、ta:「誰の」とwa:「私の」になる。

表 2. taru「だれ」とwanu「私」の形態的な特徴

	ハダカ形	属格専用ハダカ形	助詞 ga がついた形
だれ	taru	ta:	taru=ga
私	wanu	wa:	waN=ga

次の用例は、所有者としてのハダカ格の用例である。

- 18) ure: ta: muN=ga
 それ .TOP 誰 .CNJ もの =WHQ
 それは、誰のものなのか？
- 19) wa: uja: jamatukutuba: dʒo:dze: arana:ta-N
 1.SG 親 .TOP 日本語 .TOP 上手 .TOP COP.NEG.P1-IND
 私の両親は、日本語が上手ではなかった。

watta:「私達（除外）」、agita:/agata:「私達（包括）」、ja:「きみ」、jaru:「あなた」、または、複数接尾辞 -ta:「～たち」は、変化せず、助詞がつかない形で属格として用いられている。

用例（20）～（24）は、属性をあらわすハダカ格の用例である。

- 20) kumarikwa:=ro: muru watta: dʒi:=re:-taN=ro:
 この辺り =ADT 全部 1.PL 土地 =COP-P1=DSC
 この辺りも全部私たちの土地だったよ
- 21) agita: ʃi:=ja 'na:' =tʃo:-he: tʃikaN=ro:=ja:
 1.PL.INCL ところ =TOP 2.SG=QT. いう -NLZ.TOP 使う .NEG=DSC=DSC
 私たちのところは、'ナー' というのは、使わないよね。
- 22) ja: asabaN=ja Nmi:=ga ʃiko:-te:-kutu,
 2.SG 昼ご飯 =TOP お姉さん =NOM 準備する -RES-CSL
 tuiga itʃiba
 とる .PUR 行く .IMP
 きみの昼ご飯は、お姉さんが準備したから、とりに行きなさい。

- 23) uri < sorobaN >= ja jaru: muN=re-N=na?
 そのそろばん =TOP 2.SG もの =COP-IND=YSQ
 そのそろばんは、あなたの物なのか？

- 24) taru:-ta: tʃakuse: nama jamatu=ni u-N=tʃo-N
 太郎 -PL 長男 .TOP 今 日本本土 = DAT いる -IND=QT. いう -IND
 太郎たちの長男は、今本土いるそうだ。

su: 「お父さん」、aNma: 「お母さん」、jattʃi: 「お兄さん」、Nmi: 「お姉さん」、φu: 「おじいさん」、ha: 「おばあさん」、uNtsu: 「おじさん」、ba:tʃi: 「おばさん」などのような、呼称で用いられる親族名詞もハダカの形で属格形式として用いられる。

- 25) ba:tʃi: na:bi ha:ku ke:h-iba!
 おばさん 鍋 早く 返す -IMP
 おばさんの鍋を早く返せ！

人の名前もハダカの形で属格形式として用いられるばあいがあるが、属性をあらわすのに nu 格のほうが多くあらわれる。

- 26) ure: tʃiru: muN=re-N=na?
 それ .TOP ツル もの =COP-IND=YSQ
 それはツルのものなのか？

もう1つのハダカ格の用法は、方向をあらわすことである。この用法は、面接調査では、出にくかったが、自然談話には、多くの例が出ていた。

- 27) gakko: itʃaine: dʒi: katʃi-ju:s-ana:te-N
 学校 行く .NEG.CND 文字 書く -ABIL-NEG.REC-IND
 学校二行かなければ字ガ書けなかった。

- 28) watta:=ja <taipei> NdzaN=ro:
 1.PL=TOP 台北 行く .P1=DSC
 私たちは、台北に行ったよ。

- 29) ma: meNso:-tʃa-ga?
 どこ いらっしゃる -P1-WHQ
 どこにいらっしゃいましたか？

4. ga 格

ga は、主格、述語にさしだされる特性を持つ主語の側面、属格をあらわす。動作や状態の持ち主をあらわす主語としての ga 格は、次のとおりである。

- 30) uri Nmo: waN=ga na: ara-to-N
 その芋 .TOP 1.SG=NOM もう 洗う -CONT-IND
 その芋は、私がもう洗っている。
- 31) ki:=ga ϕ utʃa:-ti kuraha-N
 木 =NOM 繁茂する -MED 暗い -IND
 木が繁茂して暗い。
- 32) bo:dza:=ga <ʃiNbuN > muNtaku na:tʃi=jo:
 坊や =NOM 新聞 しわくちゃ 成す .MED=DSC
 坊やが新聞をしわくちゃにしたんだよ。
- 33) ϕ u:=ga nuNkui tsuku-ti=ru a-te:-kutu,
 おじいさん = NOM 何もかも作る -MED=FOC ある -REC-CSL
 ikusa=ne: munu < ho: ϕ u > ja-ta-N= ro:
 戦争 = 与格 .TOP 食べ物 豊富 COP-P1-IND=DSC
 おじいさんが何もかも作っていたのだから、戦争には、食べ物が豊富だったよ。

kuri 「これ・かれ / かのじょ」、uri 「それ・かれ / かのじょ」、ari 「あれ・かれ / かのじょ」の代名詞 (3 人称・指示代名詞) と助数詞 -tʃi 「〜つ」と -tai 「〜人」からなる数詞において所有者、所属先、基準点をあらわす属格として用いられる。

次の用例は、ga 格の名詞が所有者をあらわす。

- 34) uri=ga <me:se:> mata ma:=ni utʃa-gaja:?
 それ = GEN 名刺 .TOP また どこ = 与格 奥 .P1=SLFQ
 かれの名刺は、またどこに置いたかな？

セクション 3 で言及したように、taru 「誰」は、属格の専用形式 ta: 「誰の」も用いられるが、ga 格をとるばあいもある。

- 35) ure: taru=ga muN=ga?
 それ .TOP 誰 =GEN もの = WHQ
 それは、誰の物なのか？

2 人称代名詞 ja: 「きみ」は、ハダカ格でも所有者になるが、ga 格で所有者になる例も確認できた。

- 36) ja:=ga ti:=ja ti:ma:mi riki-to:-he:
 2.SG=GEN 手 = TOP まめ できる -CONT-DSC
 きみの手は、まめができていない。

-hi による動詞の準名詞形も属格形式は、ga である。

- 37) ha:ku tsu:-hi=ga muN=re:-ru
 早く 来る -NLZ=GEN もの =COP-EMP
 はやく来る人のものだ (早い者勝ちだ)。

次の用例では、ga 格の名詞が基準点をあらわす。

- 38) ta:tʃi=ga je: ti:tʃi irab-iba
 2つ =GEN うち 1つ 選ぶ -IMP
 2つのうちに1つを選ぶ。
- 39) o:-te:tsuta-kutu, waN=ga tai=ga na:ka tu:ta-N
 ケンカする -PROG.P2-CSL 1.SG=NOM 2人 = GEN 中 とる .P1=IND
 ケンカしていたから、私が2人の間をとった。

5. nu 格

nu 格は、所有者や所属先、性質、基準点をあらわす。ハダカ格と ga 格も所有者や所属先をあらわすが、有生性による使い分けがあり、詳しくは、まとめて述べている。

次の用例では、nu 格の名詞が所有者をあらわす。

- 40) undzu=nu ire:ra tʃika-tiN ʃimabi-N=na?
 2.SG=GEN 釜 使う -CNC 良い .POL-IND=YNQ
 あなた様のかまを使ってもいいですか？
- 41) ure: se:ku=nu do:gu=re:-kutu sa:-ranoi ʃiba
 それ .TOP 大工 = GEN 道具 =COP-CSL 触る -NEG.MED すん .IMP
 それは、大工の道具だから、触らないでね。

次の用例では、nu 格の名詞が所属先をあらわす。

- 42) marumai=nu <kutʃo:> ʃi-ttʃo:-mise-N=na?
 真泊 =GEN 区長 知る -CONT-HON-IND=YNQ
 真泊の区長、ご存知ですか？
- 43) ki:=nu ni:=ni kittʃaki-ti kurura-N
 木 = GEN 根 =DAT つまづく -MED 転ぶ .P1
 木の根につまづいて転んだ。

次の用例では、nu 格の名詞が基準点をあらわす。

- 44) tsu=nu me: tʃidʒi-te: na-raN
 人 =GEN 前 遮る -MED.TOP なる -NEG
 人の前を遮ってはならない。

nura:riN (しかられる)、sariN (やられる) などのような受け身動詞の受け身の相手 (受動文の動作主)、kwa:φuN (食わせる)、ʃimijuN (させる) などの使役動詞の使役の相手 (被使用者) をあらわすのにも用いられる。

- 48) ja:=katʃi/ja=Ngati kuju-N=tʃaNtʃi umi-ti
 2.SG=DAT/2.SG=DAT くれる -IND=QT 思う -MED
 きみにやると思って ...
- 49) aNtʃo:hi: ʃi:ne: uja=katʃi/uja=Ngati nura:ri:ta-N
 そんなこと する .CND 親 = DAT/ 親 = DAT 叱る .PAS.P2-IND
 そんなことしたら、親に叱られていた。
- 50) ari=katʃe:/ari=Ngate: nu: ʃimi-tiN hakara:ha-N
 あれ = DAT.TOP/ あれ = DAT.TOP 何 させる -CNC 捗々しい -IND
 かれには、何をさせても捗々しい。
- 51) kaNtʃo:hi:=ja wa:=katʃi/wa=Ngati kwa:φu-hi=re:-ru
 こんなもの =TOP 豚 =DAT/ 豚 = DAT 食う .CAUS-NLZ=COP-EMP
 こんなものは、豚に食わせるものだ。
- 52) nu:ʃi=katʃi/nu:ʃi=Ngati aNtʃa-kutu
 ボス =DAT/ ボス = DAT いう .P1-CSL
 ボスに言ったから。

katʃi 格と Ngati 格がくつつくところをあらわす例が確認できた。

- 53) kubiraki midʒi=katʃi/midʒi=Ngati tʃiruga-to-N
 首の高さ 水 = DAT/ 水 = DAT 浸かる -CONT-IND
 首までの高さを水に浸かっている。
- 54) aNne:naʃiku tsu=nu ja:=katʃi/ja=Ngati i-ttʃe: na-raN
 断りもなく 人 = GEN 家 = DAT/ 家 = DAT 入る -MED.TOP なる -NEG
 断りもなく人の家に入ってはならない。

katʃi 格と Ngati 格が関係をあらわす例が確認できた。

- 55) kumidʒima-munui=ja jaNbaru=nu kutuba=katʃi/kutuba=Ngati
 久米島 - 言葉 =TOP やんばる =GEN 言葉 = DAT/ 言葉 = DAT
 ni-tʃo-N=ganeN a-N
 似る -CONT-IND=INF ある -IND
 久米島言葉は、やんばるの言葉に似ているようだ。
- 56) ure: uja=katʃi/uja=Ngati ge: tʃa-nu hadʒi
 それ .TOP 親 =DAT/ 親 =DAT 反抗 する .P1=ATT はず
 かれは、親にはむかっただ。

ありかでは、katʃi 格と Ngati 格の違いがでてきており、Ngati は、ありかに用いられる例と用いられない例がある。これらは、あくまでも話者の内省によるものであり、詳細に関しては、さらなる調査が必要である。

57) では、katʃi 格と Ngati 格の両方が用いられる。

- 57) ma:=katʃi/ma=Ngati maga:-ki:=ga a-ta-N
 どこ =DAT/ どこ =DAT 大きい - 木 =NOM ある -P1-IND
 庭に大木があった。

(58) と (59) もありかの例であるが、Ngati 格は、用いられない。

- 58) u:ru=nu wa:bi=kʃi/ × wa:bi=Ngati tigami=ga a-N
 布団 =GEN 上 =DAT/ 上 =DAT 手紙 =NOM ある -IND
 布団の上に手紙がある。
- 59) su:=ja nama ja:=katʃi/ × ja=Ngati u-N
 お父さん =TOP 今 家 =DAT/ 家 =DAT いる -IND
 お父さんは、今家にいる。

katʃi 格と Ngati 格は、動詞 najuN 「なる」が組み合わせさって、連語述語の要素となる。najuN 「なる」がハダカ格と連語述語になるばあいもあるが、katʃi 格がその中の変化が大きいことをあらわすに用いられているようである。たとえば、第3章で扱った用例 (15) ~ (17) のばあいは、katʃi 格と Ngati 格が用いられないが、(60) のばあいは、katʃi 格と Ngati 格が用いられる。

- 60) utto: utu muttʃi
 年下の兄弟 .TOP 夫 持つ .MED
kaniguʃiku=kʃi/kaniguʃiku=Ngati na-to-N
 金城 =DAT/ 金城 =DAT なる -CONT-IND
 妹は、嫁に行って金城になっている。

6.2. ni 格・nakai 格・nikai 格

ni 格、nakai 格、nikai 格の3には、ありか、動作や状態がなりたつ時間、相手、くつつくところ、関係、道具という用法が確認できている。ni 格は、その中でもっとも使用頻度が高く、使用領域も広く、行先、目的、原因、割合をあらわす例も確認できた。

ni 格、nakai 格、nikai 格の名詞は、述語に存在動詞が用いられたばあい、人やものが存在するありかをあらわす。このばあい、katʃi 格に置き換えることができるが、Ngati 格に置き換えることはできない。

- 61) u:ru=nu wa:bi=ni/ nakai/ nikai tigami=ga a-N
 布団=GEN 上= DAT/DAT/DAT 手紙=NOM ある -IND
 布団の上に手紙がある。
- 62) su:=ja nama ja:=ni/ nakai/ nikai u-N
 お父さん=TOP 今 家=DAT/DAT/DAT いる -IND
 お父さんは、今家にいる。

ni 格、nakai 格、nikai 格の名詞が動作や状態がなりたつ時間時間をあらわす例が確認できた。

- 63) ke:ju-nu me:=ni/nakai/nikai guʃikuatu mi:-busa-N
 帰る -ATT 前=DAT/DAT/DAT 城跡 見る -DES-IND
 帰る前に城跡を見たい。
- 64) taru:=ja <jodʒi>=ni/nakai/nikai tsu-N=tʃo-N
 太郎=TOP 4時=DAT/DAT/DAT 来る -IND=HS-IND
 太郎は、4時に来るそうだ。

ni 格、nakai 格、nikai 格の名詞が相手をあらわす例が確認できた。katʃi 格と Ngati 格に置き換えることができる。

- 65) uja=ga ari=ni/nakai/nikai dʒini ku-te:-ta-kutu,
 親=NOM あれ=DAT お金 くれる -RES-P1-CSL
 <o:tobai> ko:-te:gisa-N
 オートバイ 買う -HS-IND
 親が彼にお金をやっていたから、オートバイを買ったらしい。
- 66) tusui=ni/nakai/nikai tu:ju-hi=ga=ru maʃi ja-ru
 年寄り=DAT/DAT/DAT 問う -NLZ=NOM=FOC まし COP-EMP
 年寄りに問うほうが良い。
- 67) hja:ku= mari itʃitʃi:ne:
 100=LMT 生きる .CND
jumi-nutʃa:=ni/nakai/nikai kaʃimaha sari:-higa
 嫁 -PL=DAT/DAT/DAT 面倒くさい .NLZ する .PAS-ADVRS
 100 まで生きたら、嫁たちに面倒くさがれるけど…
- 68) kaNtʃo:hi:=ja wa:=ni/nakai/nikai kwa:ʃu-hi=re:-ru
 こんなもの=TOP 豚=DAT/豚= DAT 食う .CAUS-NLZ=COP-EMP
 こんなものは豚に食わせるものだ。

ni 格、nakai 格、nikai 格の名詞がくつつくところをあらわす例が確認できた。このばあ

い、katʃi 格と Ngati 格に置き換えることができる。

- 69) aNtsu=ro: kuruh-ari:-nu <risuto>=ni/nakai/nikai
あの人 =ADT 殺す -PAS-ATT リスト =DAT/DAT/DAT

no:-to:-ta-N=tʃo-N

のる -CONT-P1-IND=HS-IND

あの人も殺されるリストにのっていたそうだ。

- 70) uri miso: <re:dzo:ko>=ni/nakai/nikai itto:-ta-N
その味噌 .TOP 冷蔵庫 =DAT/DAT/DAT 入れる .CONT-P1-IND

その味噌を冷蔵庫に入れていた。

ni 格、nakai 格、nikai 格の名詞が関係をあらわす例が確認できた。このばあい、katʃi 格に置き換えることができる。

- 71) watta:=ja ʃi:dza-nutʃa:=ni/nakai/nikai maki-to-N
1.SG=TOP 先輩 -PL=DAT/DAT/DAT 負ける -CONT-IND

私たちは、先輩たちに負けている。

- 72) jararo:-munui=ni/nakai/nikai kurabi-ti
謝名堂 - 言葉 =DAT/DAT/DAT 比べる -MED

ma:dza-munui=ja he:sa-N-ganeN a-N

真謝 - 言葉 =TOP 速い -IND-INF ある -IND

謝名堂方言に比べて、真謝方言は、速い感じがする。

- 73) jattʃi:=ja ʔu:=ni/nakai/nikai ni-tʃo:-ha=ja:
お兄さん =TOP おじいさん =DAT/DAT/DAT 似る -CONT-DSC=TOP

お兄さんは、おじいさんに似ているよね。

- 74) tʃi:ru:-tʃinu=ga ja:=ni/nakai/nikai utʃa-to-N
黄色 - 着物 =NOM 2.SG=DAT/DAT/DAT 似合う -CONT-IND

黄色い着物がきみに似合っている。

ni 格、nakai 格、nikai 格の名詞は、道具をあらわす例が確認できた。次の用例では、katʃi 格に置き換えることができる。

- 75) ʃiʃi na:bi=ni/nakai/nikai jatʃa-N
肉 鍋 =DAT/DAT/DAT 焼く .P1-IND

肉を鍋で焼いた。

次の用例も道具という用法の例であるが、ni 格と nikai 格は、用いられるが、nakai 格は、用いられない。

- 76) uri ti:=ni/nikai/ × nakai muttʃi Nri
それ 手 =DAT/DAT/DAT 持つ .MED 見る .IMP

ることをしめしている。

比較のために表2に kai 格も入れた。1950年以前に生まれた泊・謝名堂方言話者は、kai 格をほとんど用いられず、西に隣接する比嘉集落や、銭田と真我里という移住者集落の言葉であると認識している。それに対して、1950年以降に生まれた話者は、kai を頻繁に用いる。本稿では、なるべく伝統的な泊・謝名堂方言を分析の対象としているため、kai を扱わないことにするが、網羅するために表2に入れた。

表3. 面接調査において得られた与格形式の用法の一覧

	ni	nakai	nikai	katʃi	Ngati	kai
くつつくところ	○	○	○	○	○	○
相手	○	○	○	○	○	○
行先	○	○	△	○	○	○
関係	○	○	△	○	△	○
道具	○	△	○	△	△	△
ありか	○	○	○	○	△	○
時間	○	○	○	×	×	○
なる	○	○	○	○	△	○

表3は、自然談話で得られた形式の用法をしめしている。格形式の用法を分析した談話は、2011年9月に録音したKM(女1936年生)とKY(女1922年生-†2013)の会話(約20分)、2015年12月に録音したYS(女1932年生)、YS(女1942年生)、TY(女1929年生)の会話(約30分)と、KM(女1936年生)とTY(女1929年生)の会話(約1時間30分)、2017年3月に録音したKM(女1936年生)とMI(男1947年生)の会話(約20分)である。格形式の用法においては、話者TY(女1929年生)のみがNgati格を使ったこと以外には、きわだった個人差がなかった。

格助詞がなくても、ja「は」、ro「も」、ru(焦点化)などのとりたて助詞がついた名詞の例もあり、「ハダカ格」よりここで「格表記なし」というラベルをつけることにした。nakai格とnikai格の例は、得られなかったことは、それらの形式の使用頻度の低さをしめしている。

行先という用法においては、katʃi格が16例でもっとも多いが、格表記がない、行先をあらわす名詞の例が10ある。格表記は、ないが、ja「は」、ro「も」、ru(焦点化)のとりたて助詞がついた名詞も含まれている。

くつつくところは、ni格が15例でもっとも多かったが、katʃi格は、8例で全例の3割に近い。Ngati格と格表記なしの例は、1例ずつ得られた。

使役、やりもらい、言活動の相手をあらわす名詞の例は、8例で少なかったが、その中の5例は、katʃi格であり、2例は、ni格であり、1例は、Ngati格であった。

受け身の相手をあらわす名詞の例は、3例で少なかったが、全例がni格であったため、その他の相手をあらわす名詞と別の分類として扱うことにした。ところが、例が少ないた

め、結論を出すためには、自然談話を収集する必要があると思われる。

ありかをあらわす名詞は、16例があり、全例が ni 格であった。

名詞が動詞 najuN「なる」と合わせ述語になる例は、5例あり、全例は、格表記なしであった。

自然談話資料から分かったのは、ほとんどの用法は、1つの格形式に偏るということである。ありかという用法には、ni 格以外の例がないことが特徴的であり、ni 格への強い偏りをしめしている。

表 4. 自然談話における与格の使い分け

	ni	katʃi	Ngati	格表記なし	全例
行先	5	16	0	10	31
くつつくところ	15	8	1	1	25
相手（使役、やりもらい、言活動）	2	5	1	0	8
受け身の相手	3	0	0	0	3
ありか	16	0	0	0	16
najuN「なる」	0	0	0	5	5

格助詞の katʃi、Ngati と同じ系統の助詞が奄美群島と沖縄北部にも確認できている。沖永良部正名（ファンデルルベ 2016）や今帰仁謝名（島袋 2015）においては、katʃi、Ngati と同じ系統であるが音声的に多少異なる助詞（例えば、正名：gatʃi、謝名：kati など）は、行先をあらわしている。これらを katʃi 類と呼ぶこととする。また、ni 格および ni 格と同じ系統であるが音声的に多少異なる助詞は、ありかをあらわしている。これらを ni 類と呼ぶこととする。katʃi 類および ni 類は、それぞれ明確に使い分けられているようである。かつて泊・謝名堂方言において行先をあらわす katʃi 類とありかをあらわす ni 類の使い分けが強かった可能性がある。それは、話者との調査では、行先もしくはありかをあらわす際に、katʃi 類および ni 類のいずれも使用できると、話者から確認できた。しかし、自然談話から katʃi 類および ni 類の使い分けを調査したところ、ありかをあらわすのに ni 類のみが使用されていた（表 3）。このことから、かつては katʃi 類および ni 類を使用する制約が強かったことが推測できる。

7. 場所格

場所格形式は、jo:ti 格、Ndʒi 格、Ndzo:ti 格の 3 つがある。

7.1. jo:ti 格

jo:ti 格の名詞は、動作や状態がなりたつ場所、ある事態が成立する範囲、時間の範囲をあらわす。

次の用例では、jo:ti 格と Ndʒi 格の名詞が動作や状態がなりたつ場所をあらわす。

- 81) Nmi:=ja ru:=nu ja:=jo:ti misu tsukuju-N
 お姉さん =TOP 自分 =GEN 家 =LOC 味噌 作る -IND
 お姉さんは、自分の家で味噌を作る。

積極的な動作が行われる場所をあらわすばあい、jo:ti 格は、存在動詞の aN 「ある」と共起できる。

- 82) nakarumai=jo:ti matfi:=ga a:-nu φu:dʒi:=re:
 仲泊 =LOC 祭り =NOM ある -ATT HS=DSC
 仲泊で祭りがあるらしいよ。

次の用例では、jo:ti 格の名詞が評価がなりたつ範囲をあらわす。

- 83) jararoNtsu=nu na:ka=jo:te:
 謝名堂の人 =GEN 中 =LOC.TOP
 kamare:=ga=ru itʃibaN dzo:dʒi ja-ru
 カマデー =NOM=FOC いちばん 上手 COP-EMP
 謝名堂の人の中では、カマデーがいちばん上手だ。

次の用例では、jo:ti 格の名詞が時間の範囲をあらわす。

- 84) uri wadza: kinu:=jo:ti tʃo:kiba=re:-ta-higa
 その 仕事 .TOP 昨日 =LOC する .PROS.CND=COP-P1-ADVRS
 その仕事は昨日でやっておかなければならなかった。

- 85) nama=jo:ti ʃi:dza-nutʃa:=tu <iNtabju:> tʃi
 今 =LOC 先輩 -PL=ASC インタビュー する -MED
 ʃimakutuba <kiroku> tʃo:kaine: na-ra:-ha=ja:
 島言葉 記録 する .PROS.NEG.CND なる -NEG.DSC=DSC
 今のうちに先輩たちとインタビューをして島言葉を記録しておかなければならないよね。

7.2. Ndʒi 格

Ndʒi 格は、jo:ti 格と同様、動作や状態がなりたつ場所、ある事態が成立する範囲をあらわすのに用いられるが、jo:ti 格より使用頻度が低い。格助詞 Ndʒi は、動詞 itsuN 「行く」の中止形 Ndʒi 「行って」に由来する。

Ndʒi 格は、動作や状態がなりたつ場所をあらわすばあい、話し手がいる場所と異なる空間で動作が行われるばあいに用いられることが多い。この現象は、沖縄語平安座方言においても確認されている（當山 2015: 55）。

- 86) watta: tʃakuse: na:ha=Ndʒi kuratʃo-N
 1.PL 長男 .TOP 那覇 =LOC 暮らす .CONT-IND
 私たちの長男は、那覇で暮らしている。

- 87) wano: ju:bi nakarumai=Ndʒi nura-N
 1.SG.TOP 昨夜 仲泊 =LOC 飲む .P1-IND
 私は、昨夜仲泊で飲んだ。

jo:ti 格と同様、Ndʒi 格は、評価がなりたつ範囲をあらわすのにも用いられる。

- 88) ʃi:dza-nutʃa:=nu na:ka=Ndʒe: uNtsu=ga=ru
 先輩 -PL=GEN 中 =LOC.TOP その人 =NOM=FOC
 先輩たちの中では、その人が
 itʃibaN gaNdzu-muN ja-sa
 一番 元気もの COP-DSC
 一番元気ものだよ。

jo:ti 格と異なり、Ndʒi 格は、存在動詞と共に起できず、時間状況をあらわすのにも用いられない。

7.3. Ndʒo:ti 格

動作や状態がなりたつ場所をあらわすのには、Ndʒo:ti 格の使用の例も確認できた。Ndʒo:ti 格は、動詞 itsuN の継続形 NdʒoN 「行っている」の中止形 Ndʒo:ti 「行っていて」の文法化したものである。

Ndʒo:ti 格の使用は、jo:ti 格と Ndʒi 格より限られており、一人称に使用できず、動作進行をあらわす -te:tsuN 形式（～テアルキオリ相当形式）が述語に立っている文のみに用いられる。

- 89) je:sa: mi:ga itʃi-busa:-higa,
 エイサー 見る .PUR 行く -DES-ADVRS
 nama ma=Ndʒo:ti tʃe:tsu-gaja:?
 今 どこ =LOC する .PROG-SLFQ
 エイサーを見に行きたいけど、今どこでやっているかな？

- 90) watta: kwa: jamatu=Ndʒo:ti gakko: Ndʒi-te:tsu-N
 1.PL 子供 .TOP 日本本土 =LOC 学校 出る -PROG-IND
 私たちの子供は本土で学校を出ている。

- 91) jaru:-ta:=ja ju:be: ma=Ndʒo:ti nure:tsuta-ga?
 2-PL=TOP 昨夜 =TOP どこ =LOC 飲む .PROG.P2-WHQ
 あなたたちは、昨夜は、どこで飲んでいたか？

8. tʃi 格

tʃi 格の名詞は、道具、材料、手段、原因などをあらわす。tʃi は、動詞 suN 「する」の中止形 tʃi 「して」が文法化したものである。沖縄久米島調査委員会（1982）によると、久米島の北部や西部の方言では、sa:ni も使用されるとのことであるが、泊・謝名堂方言においては、tʃi しか使用されない。

次の用例では、tʃi 格の名詞が道具をあらわす。

- 92) udze: ju:tʃi=tʃi=ru to:ɸu-N=ro:
 サトウキビ.TOP 4つ=INST=FOC 倒す -IND=DSC
 サトウキビは、斧で刈るんだよ。
- 93) <peN>=tʃi katʃe:-kutu ke:h-ar-aN=ro:
 ペン=INST 書く.RES-CSL 消す -POT-NEG=DSC
 ペンで書いたから、消せないよ。
- 94) me:ʃi=tʃi mi: muru ka:=kara haNtʃi kamita-N
 箸=INST 身 全部 皮=ABL 放す.MED 食べる.P2-IND
 箸で身を全部皮から放して食べていた。

次の用例では、tʃi 格の名詞が生産活動の材料や原料をあらわす。これらのばあい、tʃi 格の名詞を kara 格の名詞に置き換えることができる。

- 95) <bi:ro:> mudʒi=tʃi=ru tsukuju-N=na?
 ビール.TOP 麦=INST=FOC 作る -IND=YNQ
 ビールは、麦で作るのか？
- 96) Nkaʃi=nu ja:=ja muru ki:=tʃi tsuku-ta-N
 昔=GEN 家=TOP 全部 木=INST 作る -P1-IND
 昔の家は、全部木で作った。

tʃi 格の名詞が手段をあらわす例も確認できた。車、船、バスなどのような交通手段のばあいは、tʃi 格の名詞を kara 格の名詞に置き換えることができる。

- 97) tuiʃima=katʃe: kuruma=tʃi=ru itsu-N=na?
 鳥島=DAT.TOP 車=INST=LOC 行く -IND=YNQ
 鳥島には、車で行くのか？

原因（理由）をあらわす例は、下記の tʃi 格の名詞から確認できた。この用例は、話し手が、運動会への参加を好まないため、逃げることで参加することを拒否したという意味である。

- 98) watta: na: <uNdo:kwai >=tʃe:
 1.PL もう 運動会= INST.TOP

hiNdʒiju=ru sute:-nu muN
 逃げる =FOC する .P2.REC-ATT もの
 私たちもう運動会では、逃げたのだから。

9. kara 格

kara 格の名詞は、出所 (99)、とりはずす所 (100)、出発場所 (101)、材料 (102)、手段 (103)、移動の経路 (104)、開始時間 (105)、相手をあらわす。

99) ka:ra=nu a:higutʃi=kara midʒi=ga ʃimi-ti
 瓦 =GEN 合わせ目 =ABL 水 =NOM しみる -MED
 tʃoN-tʃoN=tʃi muju-higa
 チョンチョン =QT 漏れる -ADVRS
 瓦の合わせ目から水がしみてチョンチョンと漏れるけど ...

100) toNgwa=kara se:dzara muttʃi kuba
 台所 =ABL お皿 持つ.MED 来る .IMP
 台所からお皿を持ってきなさい。

101) ja:=kara Ndʒije: nibuku ami=ga ʃu-ti sukkwe:tʃa-N
 家 =ABL 出る .NLZ.TOP 遅く 雨 =NOM 降る .MED 困る .P1-IND
 家から出るや否や雨が降って困った。

102) miso: nu:=kara tsukuju-ga?
 味噌 .TOP 何 =ABL 作る -WHQ
 味噌は何から作るか？

103) ʃuni=kara na:ha=katʃi Ndʒi
 船 =ABL 那覇 =DAT 行く .MED
 船で那覇に行って…

104) marumai=ja utʃamu=kara itsu-hi=ga=ru tʃitʃaha:-ru
 真泊 =TOP 宇根 =ABL 行く -NLZ=NOM=FOC 近い -EMP
 真泊は、宇根から行くほうが近いんだよ。

105) <gakki>=ja atʃa=kara hadʒimaju-N=tʃo-N
 学期 =TOP 明日 =から 始まる -N=HS-IND
 学期は、明日から始まるそうだ。

用例 (106) ~ (108) においては、kara 格の名詞が相手をあらわす。

106) udzasa:=kara dʒini i:-ta-N
 おじ =ABL お金 もらう -P1-IND
 おじからお金をもらった。

- 107) uri <ko:dʒikiN>=ja misuja:=kara ko:-ta-N
 その 麴菌 =TOP 味噌屋 =ABL 買う -P1-IND
 その麴菌は味噌屋から買った。

- 108) watta:=jakaN ʃi-ttʃi=ru u:-nu muNnu
 1.PL=CMP 知る =MED=FOC いる -ATT ADVRS
 watta:=kara nare:-gure:=na?
 1.SG=ABL 習う -必要 =YNQ
 私たちより知っているのに、私たちから習う必要あるか？

次の用例では、ka: 格の名詞が受身の相手＝動作の主体をあらわす。このようなばあい、ni 格が置き換え可能である。

- 109) tsu=kara wara:ri:-hi=jakaN maʃi ja-sa
 人 =ABL 笑う .PAS-NLZ=CMP まし COP-DSC
 人に笑われるよりみましたよ。

10. na:ri: 格

na:ri: 格の名詞は、移動の経路をあわし、kara 格の名詞に置き換えることができる。

- 110) guʃitʃa:=ja ma:=na:ri: itʃi:ne: tʃitʃaha:-bi:-ga?
 具志川 =TOP どこ =PROL 行く -CND 近い -POL-WHQ
 具志川は、どこを経由して行ったら近いですか？
- 111) are: <hoNkoN>=na:ri: <oraNda>=katʃi itsu-N=tʃo-N
 あれ =TOP 香港 =PROL オランダ =DAT 行く -IND=HS-IND
 かれは、香港経由でオランダに行くそうだ。

11. mari 格

mari が名詞に付くばあい、動作の到達場所、または動作や状態がおわる時間をあらわす。

次の用例では、mari 格の名詞が到達場所をあらわす。

- 112) ha:ma=mari ha:ti kuba
 浜 =LMT 走る .MED 来る .IMP
 浜まで走ってきなさい。

次の用例では、mari 格の名詞が動作のおわる時間をあらわす。

- 113) <deNke:> kisa=mari tʃitʃo:-ta-higa ke:-to-N
 電気 .TOP さっき =LMT つく .CONT-P1-ADVRS 消える -CONT-IND
 電気はさっきまでついていたけど、消えている。

mari が ni と組み合わされている marini の例が確認できた。これは、述語の動作が完結するまでの時間的制限をあらわす。

- 114) niNgwatʃi ɸutʃika=marini Ndzah-aine: na-raN=tʃo:-hi
 2月 2日=LMT 出す-NEG.CND なる-NEG=QT. いう-NLZ
 ʃi-raN=ru a:-ti=na?
 知る-NEG=FOC ある-MED=YNQ
 2月2日までにしなくてはならないということを知らなかったのか？

12. jakaN 格・jukaN 格

jakaN 格の名詞は、比較の基準をあらわす。jukaN 格も jakaN 格の音声的なバリエーションとして存在する。

- 115) jaru:=ga tsukuju-nu miso:
 2.SG=NOM 作る-ATT 味噌=TOP
 あなたが作る味噌は、
jamatu-misu=jakaN subukara-kuneN=ro:
 日本本土-味噌=CMP 塩辛い-NEG=DSC
 本土の味噌より 塩辛くないよ。
- 116) aNma: muno: <resutoraN>=jakaN dzo:i ma:ha-N
 お母さん.GEN もの.TOP レストラン=CMP ずっと おいしい-IND
 お母さんのご飯はレストランよりずっとおいしい。

13. tu 格

tu 格の名詞は、相手 (117)、関係 (118)、共格 (いっしょに動作をおこなう仲間) (119) をあらわす。

- 117) utti: <kutʃo:>=tu juNtaku tʃa-N
 一昨日 区長=ASC おしゃべり する.P1.IND
 一昨日区長とおしゃべりヲした。
- 118) guʃitʃa:-munui=ja kuma=nu kutuba=tu tʃigaju-N
 具志川-言葉=TOP ここ=GEN 言葉=ASC 違う-IND
 具志川言葉は、この言葉と違う。
- 119) wano: aNtʃi dzo:dʒi na-to:-nu tsu-nutʃa:=tu
 1.SG=TOP あんなに 上手 なる-CONT-ATT 人-PL=ASC
 私はあるに上手二なっている人たちと
 maNdʒo:na na-ra:ha
 一緒に できる-NEG.DSC
 一緒にできないよ。

まとめ

本稿では、沖縄語久米島泊・謝名堂方言の名詞の格の分析・記述を行なった。当該方言の格形式の特徴としては、次の点がある。

① nu 格は、地理的に近い久米島真謝方言（仲原 2016：151）をはじめ、北琉球諸語の多くの下位方言において主格として用いられるが、泊・謝名堂方言では、nu 格は、主格として機能しない。

② 属格の形式がハダカ格、ga 格、nu 格で3つある。いずれが用いられるかは、有生性の階層（animacy hierarchy）による影響があるようだ。有生性の階層の基本になるのは、動作主や所有者になる可能性である（Payne 1997：150）。たとえば、人間同士の会話では、動物が行なう動作よりは、人間が行なう動作や人間がモノの所有者になることのほうが会話の話題とされることが多い。沖縄語久米島泊・謝名堂方言でいうと、会話で所有者としてあらわれる頻度によって属格のマーキングがつく頻度も高くなる。この頻度によって、マーキングの違いが生じ得る。

有生性による言語的形式への影響の例としては、人間と非人間の違いが通言語的にもっともよく見られる（Comrie 1981：1995）。Comrie によると、固有名と一部の親族名称がその他の人間をあらわす名詞よりも、有生性の階層では上位であつかわれることも通言語的によく見られる現象である。新永（2014：189）が奄美語湯湾方言の格のマーキングと複数のマーキング0において有生性の階層がどのくらい見られるかを報告している。沖縄語泊・謝名堂方言をここで考察する。

新永があつかう名詞は、一人称代名詞、二人称代名詞、三人称代名詞、人をあらわす疑問詞、人をあらわす指示表現、呼びかける際に用いる名詞、そのほかの有生物名詞、無生物名詞である。泊・謝名堂方言の語彙から新永があつかっている分類ごとに1つをとりあげ、図5でしめす。複数のマーキング（-ta:、-na:、-nutʃa:）にも有生性による言語的形式への影響が見られる。そのため、複数形式も表に追加することにした。

表 5. 泊・謝名堂方言における有生性の階層

	一人称	二人称	二人称	人疑問詞	指示詞 (人間も)	数詞	人名	呼びかけ 名詞	再帰代 名詞	有生物、 無生物
	wanu (私)	jaru: (あなた)	ja: (きみ)	taru (誰)	ari (彼・あれ)	ta:tʃi (2つ)	taru: (太郎)	Nmi: (お姉さん)	ru: (自分)	wa: (豚) ki: (木)
複数	-ta:	-ta:	-ta:	-ta:	-ta:	×	ta:	-ta:	-na:	-nutʃa:
属格	-*	-/ga	-/ga	*/ga	ga	ga	-/nu	nu	nu	nu

* 語形変化がおこる。

前述した通り、有生性の階層の基本になるのは、動作主や所有者になる可能性である（Payne 1997：150）。つまり、名詞が動作主や所有者になる頻度が高いと、有生性が高いことになる。名詞が有生物・非有生物によって、有生性が高くなるとは限らない。

2人称代名詞 jaru: 「あなた」と ja: 「あなた」、人疑問代名詞 taru 「誰」、人名は、2つの属格形式に揺れがある。

③与格とその周辺には、形式が katʃi 格、Ngati 格、ni 格、nakai 格、nikai 格で 5 つあり、1950 年以降に生まれた話者には、さらに kai 格の使用も見られる。調査では、5 つの助詞の用法が大方重なるという結果が出たが、自然談話では、特にありかという用法における ni 格への偏りが見られる。さらに多くの談話を分析すれば、他の用法にも 1 つの格形式への偏りが見えてくる可能性がある。なお、自然談話の分析では、テンス・アスペクトと格形式の関連に関してももっと情報が得られる可能性がある。

野原（1998：268）は、謝名堂方言と島尻方言における Ngati 格の使用に言及しているが、現在、泊・謝名堂方言において Ngati 格は、katʃi 格よりずっと使用頻度が低く、年配の人の言い方として認識されている。katʃi 格の使用が泊・謝名堂の周辺地域から浸透し、Ngati 格に使用を妨げてきたようである。さらに、1950 年以降に生まれた話者の泊・謝名堂方言に kai 格の使用が浸透し、katʃi 格の使用を妨げているようである。

④場所格には、形式が jo:ti 格、Ndʒi 格、Ndzo:ti 格で 3 つある。Ndʒi 格の名詞は、話し手から離れている場所をしめすのに用いられる。さらに、Ndzo:ti 格の名詞は、1 人称の動作主で使用できず、話し手から離れている場所をあらわし、動作進行にある述語としか使用できない。

参考文献

- 奥田靖雄（1983）「に格の名詞と動詞との組み合わせ」言語学研究会編『日本語文法・連語論』むぎ書房
- 木部、暢子（2017）『危機方言の調査・保存のための総合的研究 久米島方言調査報告』、国立国語研究所
- 仲原、穰（2017）「久米島方言の下位区分」『危機方言の調査・保存のための総合的研究 久米島方言調査報告』、pp. 7-23、国立国語研究所
- 仲原、穰（2016）「久米島真謝方言の簡易文法一名詞の格」『琉球諸語 記述文法 II』 pp.144-160、沖縄
- 仲間、恵子（2015）「恩納村名嘉真方言の名詞の格」『琉球諸語 記述文法 I』 pp.218-230、沖縄
- 野原、三義（1998）『琉球方言助詞の研究』、沖縄学研究所
- 野原、三義（1982）「久米島方言の助詞」『沖縄久米島』、弘文堂
- 島袋、幸子（2015）「今帰仁村謝名方言の名詞の格」『琉球諸語 記述文法 I』 pp.200-217、沖縄
- ファンデルルベ、ハイス「琉球沖永良部語正名方言の名詞の格形式」『琉球諸語 記述文法 II』 pp.105-114、沖縄
- 當山、奈那（2015）「琉球語平安座方言の名詞の格」『国際琉球沖縄論集』第 4 号、pp.47-59、沖縄

註

i <> 内の語は、日本語へのコード・スイッチであり、泊・謝名堂方言の音韻体系にはない音韻が出る場合がある。

ii	IL 能力可能	EMP 強調	POT 状況可能
	ABL 奪格	FOC 焦点	PROG 動作継続
	ADT 累加	GEN 属格	PROL 経由
	ADVRS 逆説	HON 尊敬	PROS 展望
	ALL 方向格	HS 伝聞	PUR 目的
	ASC 共格	IMP 命令	QT 引用
	ATT 連体形	INF 推測	REC 想起
	CAUS 使役	INCL 包括	RES 結果
	CMP 比較	INST 具格	SG 単数
	CNC ゆずり	INT 意志	SIM 同時
	CND 条件	LMT 限界格	SLFQ 自問
	CNF 確認要求	MED 中止形	TM 時
	CNJ 属格	NEG 否定	TOP 主題
	CONT 結果継続	NLZ 名詞化	WHQ 疑問詞疑問
	COP コピュラ	NOM 主格	YNQ 肯否疑問
	CSL 理由	P1 第1過去	- 接辞境界線
	DAT 与格	P2 第2過去	= 接語 (助詞) 境界線
	DES 願望	PAS 受動	. 携帯素の境界線がはっきりしない
	DIM 指小辞	PL 複数	
	DSC 談話標識	POL 丁寧	